

佐伯市立東雲中学校

学力向上プランの概要

テーマ…「まなびに向かう力」を身につけ、「自主的に家庭学習」を行うことができる生徒の育成	
授業改善	その他
1 思考力・判断力・表現力の育成 ① 授業のねらいとなる視点に基づいた発表する機会の設定 ② 条件のついた文章の作成 (作文、話し合い、発表、まとめ)	1 授業ガイダンス ① スタートカリキュラム(学期の初め)の実施 ② 学期の反省と次学期に向けて(学習集会)
2 基礎的・基本的な知識・技能の定着 ① 小テストや単元テストの実施 ② 小単元ごとのチェックリストの作成	2 授業以外における学習活動 ① 朝(または放課後)の補充学習 ② 家庭学習の習慣化(家庭学習の手引き) ③ 図書館利用の拡大 ④ 被災地訪問とその還流(宮城県:市教委補助)
3 指導方法や指導形態の工夫等 ① ペア・班学習の設定 ② 「総合的な学習の時間」と「教科」との関連図を活かした授業 ③ 国際交流アドバイザー(APU学生)の招聘 ④ APU訪問(小学校と合同で実施)	3 学校評価 ① 学力向上会議(学校評議員会)との協調 (英語弁論大会, ビブリオバトル, 理科作品展など参加, 出品) ② 佐伯教育事務所・佐伯市教委との連携
4 新大分スタンダード等の徹底 ① 問題解決的な展開の授業づくり ② 生徒指導の3機能を意識した授業	4 家庭との連携・協力 ① メリハリウィークの実施 ② 自尊感情を高めるための取り組み
5 授業評価の実施 ① 授業評価アンケート(生徒)の実施 ② 学期ごとの取組重点の設定	5 地域との連携・協力 ① 「総合的な学習の時間」と地域との関連 ② 地域貢献ボランティア活動の実施 (上浦フェスタ, しめ縄づくりなど)

効果のある取組事例

授業における取組

- 生徒の学習意欲を向上させるために、問題解決的な展開の授業づくりを行い、同時に生徒指導の3機能を意識した授業の充実を図っている。
- 条件のついた文章(作文)の記述ができるよう、授業のまとめや振り返りで確認(発表、話し合い、教え合いなどで)をさせたり、毎回の定期テストに組み込んだりしている。

授業以外の取組

- 授業の復習として、家庭学習用プリントを課題にし、朝(または放課後)の補充学習で確認し、基礎的・基本的な知識の定着を図っている。
- 小規模校であるため、全校での取組が多く、全教職員が生徒と関わりを持ちながら信頼関係を築いている。また、生徒理解のために頻繁に情報交換を行い、教職員が共通認識を持つようにしている。

問題解決的な展開の授業づくり(連立方程式の利用)

平成28年度 第2学年 数学

1. 課題設定の工夫

○めあての提示 「連立方程式を利用して、具体的な問題を解こう」

○生徒が興味を持つ課題。

*栄養教諭から、カルシウムと骨粗しょう症についての話



○カルシウムを多く取るためには、牛乳だけでは不足している。だから、食材に含まれているカルシウムをうまく吸収することが大切です。

さて、**【課題】**

カルシウムを多くとるために、給食の副菜としてこまつなとしらす干しの和え物を考えました。
この副菜50gで、カルシウムを112mgとるには、こまつなとしらす干しをそれぞれ何gにすればよいですか。

○生徒から、「これだけでは、条件が不足している。」と指摘される。

次の条件を提示する。(100gあたりの食材に含まれるカルシウムの量)

食品(可食部)100gあたり	
食品名	カルシウムの量(mg)
しらす干し	520mg
こまつな(ゆで)	150mg



○自分で考えて、「連立方程式を作ってみよう」・・・・・・・・・・ 自己決定

こまつなが x g、しらす干し y g とする。

$x + y = 50$ …この式は、ほとんどの生徒ができる。

次の式で悩む生徒が多かった。そこで、グループ学習を

生徒指導の3機能を意識

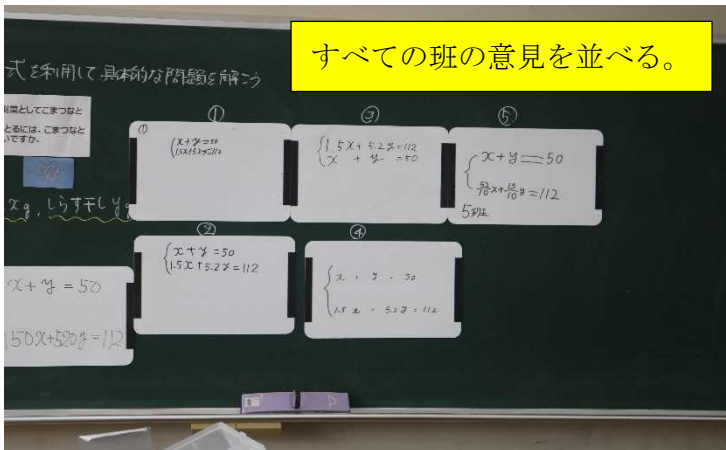
2. 生徒の予想を交流する場 (ペア学習・班学習)



*発言していない人の意思表示・・・・・・・・・・ 共感的な人間関係

*グループ学習の中で、「あなたなら、どう考える？」と他の人の意見も聞く・・・・・・・・ 自己存在感

3. 全体での交流・・・・・・・・・・ 自尊感情の高まり



1 g あたりのカルシウムの量
に注目する必要があります。



4. 振り返り



【まとめ】

*生徒にまとめを言わせて書く。

・ 1 g あたりのカルシウムの量を求めていく。

【振り返り】

*本日の給食にできる和え物はいくらで作れるか？

・ こまつな 100 g 100 円、しらす干し 100 g 400 円 一人当たりいくら？